

2026WORLD ROWING UNDER19 CHAMPIONSHIPS REPORT 7 (8/7)

8月7日(金)

大会2日目。この日も日中はぐんぐん気温が上がリ厳しい暑さとなりましたが、水上での戦いもその暑さに負けないくらいの熱戦が続きました。

U19世界選手権日本代表クルーにとっても、力を出し尽くす熱いレースが続きました。

JM2x Final D

前日に行われた2レースとも激しいレースを繰り広げたJM2xクルー。この日もより実力が近いクルーとの戦いとなることから、覚悟を決めてレースに挑んだ。

スタートはほぼ横一線、日本も好位置に付けレースの流れに乗っている。500mの通過はスペインが1位、ほぼ並んでルーマニアが続く、日本はスペインと2.41秒差の3位に付ける。しかし後続も日本から1秒以内の差で続いており、序盤から激しい展開が続く。第2クォーターに入ると、徐々にスペインとルーマニアが抜け出してくる。そこに全くペースが落ちないウズベキスタンがじりじりと上がってきて日本をかわし3位に浮上。日本の1000mは1位のスペインから4.19秒差の4位で通過。第3クォーターも必死に前を追うが、大きく開くこともないが詰まることもなく、1500mを1位スペインから4.73秒差の4位で通過。ブラジルとラトビアは少し遅れた。ラストクォーター、どの国もプライドをかけたスパート合戦が繰り広げられたが、1位でレースを引っ張り続けたスペインをかわしこの戦いを制したのはウズベキスタンだった。日本も激しく追い上げ最後までよく戦ったが順位は変わらず4位でフィニッシュ。総合22位で大会を終えた。



ゴール前、必死に先行するクルーを追いかけるJM2xクルー(奥)。(写真左から)B 一瀬選手(若狭高校)、S 首田選手(富山国際大学)

JW1x 準々決勝 (Quarterfinal)

スタートから各国が主導権を握るため激しくペースアップをしてレースに入っていく。日本もしっかり付いて行きたいところだが、想いに反し差はじりじりと広がる。500mの通過はギリシャが少し抜け出しオランダ、ブルガリア、クロアチア、香港、日本と続く。日本と1位ギリシャとの差は6.48秒差の6位と苦しい展開。しかし日本はあきらめず粘りを見せ第2クォーターで香港をかわし5位に浮上。ただ、4艇で準決勝進出ラインの3位以内を争う上位4か国が競り合いながらペースアップをしているため差は大きく開く。上位争いは第4クォーターで地元ブルガリアが1位に躍り出てスタンドも大盛り上がりとなり、続いてクロアチア、ギリシャが準決勝進出を決めた。日本も最後まで諦めない漕ぎを見せたが、Final Dに進むこととなった。



ゴール前、懸命に前を追うJW1x 梶選手(立教大学)

JM1x 準々決勝 (Quarterfinal)

スタートからAINとベルギーが飛び出し、イギリス、セルビア、ハンガリー、日本と続く。500mはベルギー、AIN、イギリス、ハンガリー、セルビア、日本の順で通過。日本は1位のベルギーから10.39秒差、前を行くセルビアとも3.9秒差と苦しい序盤となった。第2クォーターに入っても、先行する4艇が準決勝進出ラインの3位以内を激しく争い、遅れてセルビア、日本が続く展開は変わらず。それでも日本は前を行くセルビアとの差がこれ以上開かないよう懸命に踏ん張る。第3クォーター、日本は苦しいところで力を発揮しペースを守ると、反対にペースが乱れてスピードがやや鈍ったセルビアを捉え5位に浮上。ラストクォーター、必死の追い上げとスタンド前での激しいスパートでレースをまとめ上げ、他の組とのタイムでの比較の結果Final Cに進むこととなった。



ゴール前で怒涛のスパートを入れるJM1x 佐野選手(岡谷南高校)

8月8日(土)の予定



◎現地時間 9:05 (日本時間 15:05)

JW1x Final D

JW1x 梶 ひまり(立教大学)

◎現地時間 9:20 (日本時間 15:20)

JM1x Final C

JM1x 佐野 天里(岡谷南高校)



日本とブルガリアの時差は6時間です。

最後までチーム一丸となって戦ってまいりますので、ご声援よろしくお願い申し上げます。